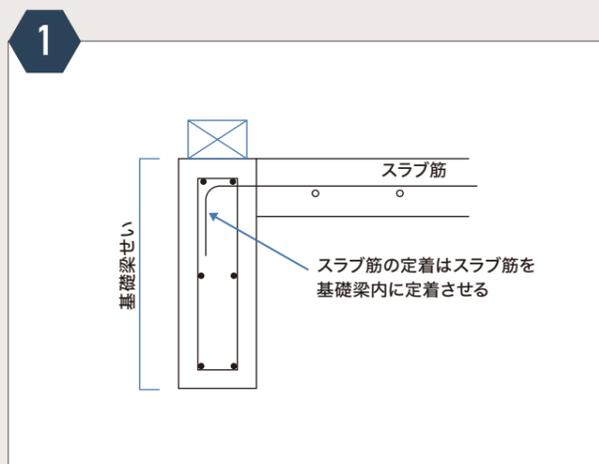


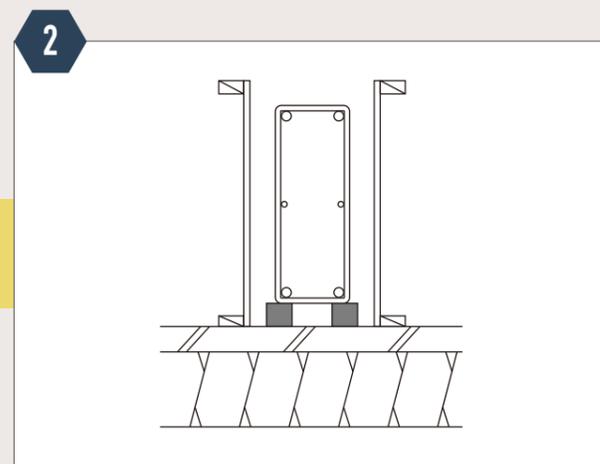


工程の流れ



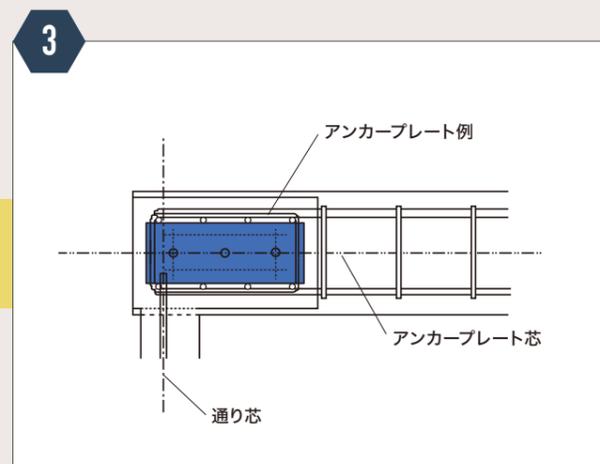
1 作図・製作

製作図は、設計図書、現場躯体図を基に基礎の中に設置できる形状、基礎配筋を考慮して作図する。
製作図は承認を得る



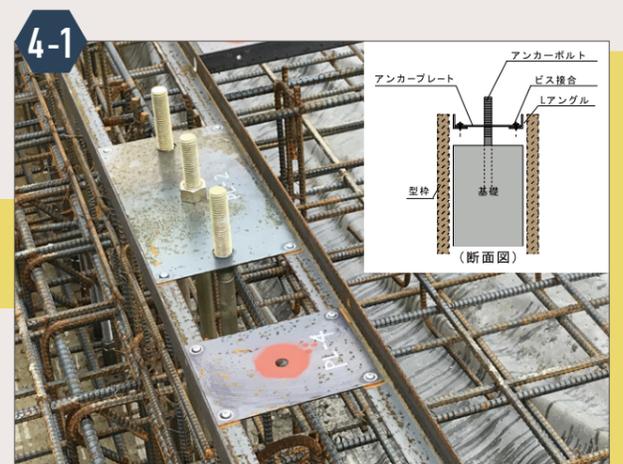
2 基礎配筋・型枠組

捨てコンクリート打設後、基礎配筋及び型枠設置を行う。



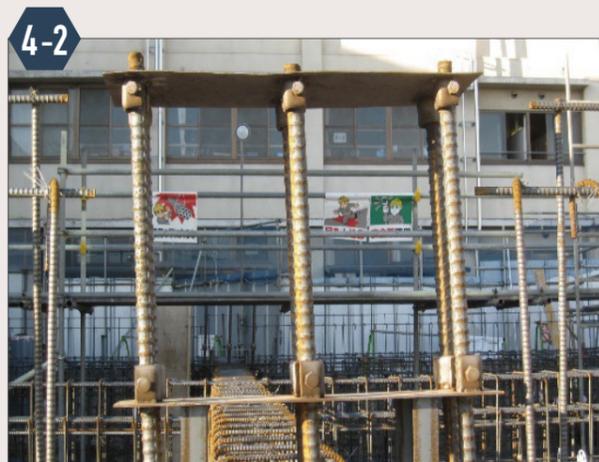
3 墨出し・アンカープレート設置

墨出し位置に合わせ、アンカープレートを設置する。



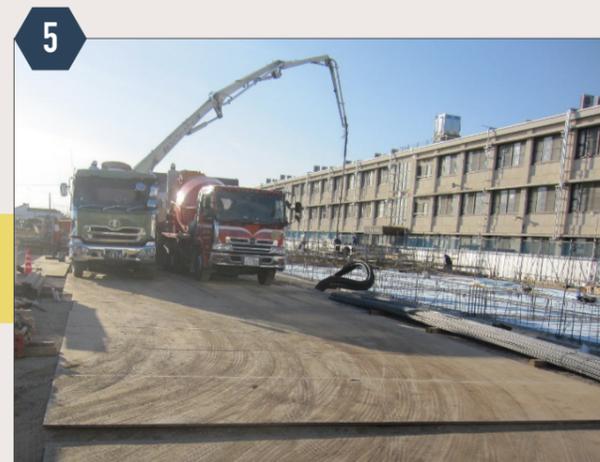
4-1 アンカーボルト設置・レベル確認

例えば、上記のようなアンカープレートを配してアンカーボルトの位置それぞれの間隔、水平、角度がずれないように固定する。



4-2 アンカーボルト位置調整・固定

上記のようなアンカーボルト固定治具を使う方法等もある。



5 基礎コンクリート打設

基礎コンクリート打設の際に、ホースなどがアンカーボルトに接触しないよう注意する。

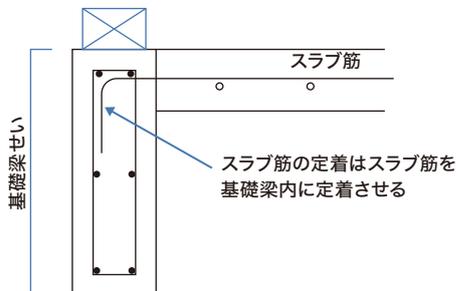


6 コンクリート打設完了・アンカープレート等調整治具取り外し



7 アンカーボルト頂部位置確認

頂部の位置が施工許容差内であることを確認する。



基礎配筋とアンカープレート、
アンカーボルトの干渉確認

《作図》

製作図は、設計図書、現場躯体図を基に設置できる形状、基礎配筋を考慮して作図する。

製作図は承認を得る。

POINT

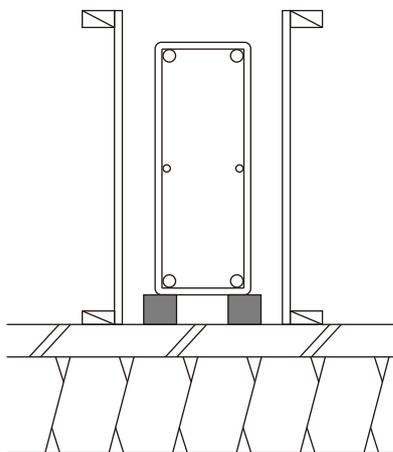
《作図の承認の上で、以下の必要項目を確認する》

1. アンカーボルトの本数、定着長さ
2. 基礎配筋とアンカープレート、アンカーボルトの干渉確認
3. アンカープレートの固定方法
4. アンカーボルトの固定方法

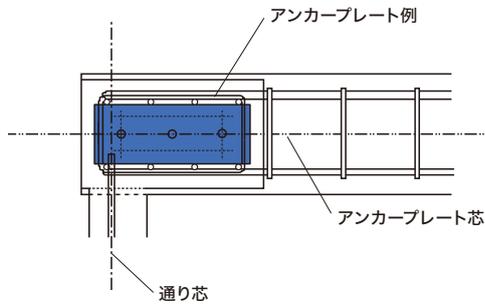
《製作》

承認された図面を基に製作する。

アンカーボルトの材質・定着長さは設計図書に従う。



捨てコンクリート打設後、基礎配筋及び型枠組を行う。



通り芯からアンカープレート芯の墨出しを行う。

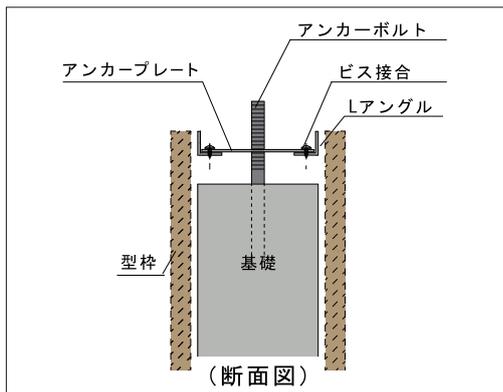
水糸を使用する等、型枠上の墨出し位置にわせ、アンカープレートを設置する。

アンカープレートは基礎型枠に固定し、水平に設置する。

POINT

アンカープレートの水平度がコンクリート天端のアンカーボルト精度に影響を及ぼすので、水平器等を用いて設置精度を確保する。

4-1 アンカーボルト設置・レベル確認



写真提供：ライフデザイン・カバヤ株式会社

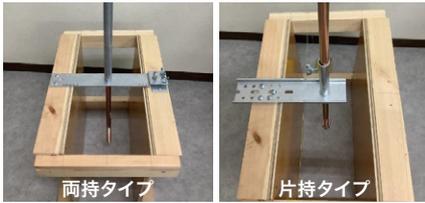
例えば、上記のようなアンカープレートを配してアンカーボルトの位置それぞれの間隔、水平、角度がずれないように固定する。

アンカープレートが水平に据え付けられていることを確認し、設計図書通りにアンカーボルトを設置する。

基礎天端レベルよりアンカーボルトの出寸法を確認し、アンカーボルト頂部のレベルを確認する。

テンプレートと型枠はビス留めとすることが多い。

〈アンカーボルト固定治具例〉



両持タイプ

片持タイプ

写真提供：タカヤマ金属工業株式会社



〈鉄筋用クリップ例〉



筋ロック

例えば、これをアンカーボルトのサポート治具として使用する。

写真提供：コンドーテック株式会社

アンカーボルト頂部のレベルが図面通りであることを確認したのちに、アンカーボルトを固定する。

固定する部分にアンカーボルトのねじ部がある場合はナットを使用して固定し、ねじ部がない場合は鉄筋用クリップ（筋ロック、KS ガッツ、テツカブト等）サポート治具などを用いて固定する。

POINT

コンクリート打設時のねじ部保護のため、テープ等で養生する。

5 基礎コンクリート打設



POINT

基礎コンクリート打設の際に、ホースなどがアンカーボルトに接触しないよう注意する。

コンクリート打設中、アンカーボルトに付着したコンクリートは水洗いする。



基礎コンクリート打設終了後、調整治具がコンクリートスラブ上に突出する場合、コンクリートスラブ打設前に撤去する。



コンクリートスラブ・土間コンクリート・ならしモルタル等の基礎天端の仕上材を打設する前に、アンカーボルト頂部の位置誤差が許容差内であることを確認する。

CLT の施工上、アンカーボルト同士の相対位置が要点となる。

フラットバーや合板等のテンプレートを作成することで、相対位置を要領よく確認出来る。

頂部の位置が施工許容差内であることを確認する。

